

授業科目	臨床実習 4	4 学年・後期・1 単位 (45 時間)	
		作業	必修

科目担当責任者	太田久晶 (保健医療学研究棟 E512 号) e-mail : hisoh@sapmed. ac. jp	非常勤講師 連絡担当教員	
担当教員			
概要	訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションを提供する施設において、見学、観察を主体とした実習を行う。学生は、地域在住の当事者の生活、および支援の実態を総合的に学習する。その上で、在宅生活の支援のために作業療法士が提供している内容について、生活機能維持・向上、社会参加・他者交流、多職種連携という視点から学ぶことを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 当事者の ADL 能力や活動性、社会参加の状況および生活環境を把握できる。 2. 訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションとして行われている作業療法の目的とその内容を把握できる 3. 在宅生活を支援するための作業療法士の役割や当事者のニーズを説明することができる。 4. 他職種との連携方法および連携の際の作業療法士の役割を説明できる。 		
評価	実習の実施状況 70%、大学におけるセミナー発表 30%とする。		
履修上の留意点	<p>事前にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。</p> <p>原則として、遅刻、欠席、早退は認められない。正当事由によりやむを得ない場合は必ず実習先および大学へ連絡をすること。</p>		

内 容 ・ 方 法	
実習方法	臨床実習指導者の指導のもと、見学、観察を主体とした実習を行う。
実習期間	10 月上旬の 1 週間(予定)
実習場所	訪問リハビリテーション、または通所リハビリテーションを提供する施設。
実習時間	9 時から 17 時までとする。ただし、実習場所に応じて変更がある。
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションで行われている作業療法の目的とその内容を把握する。 2. 当事者の ADL 能力、活動性、生活環境を把握する。 3. 他職種との連携方法を学び、職種間での作業療法士の役割を把握する 4. 学内でのグループディスカッションとセミナーでの発表資料を準備する。 5. 学内でのセミナー発表とディスカッションを実施する。